

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

平成29年度 徳島県立徳島視覚支援学校学校「学力向上実行プラン」

徳島県立徳島視覚支援学校長 上野 清文 印

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	上野 清文 福原 孝弘
学力向上推進員	教諭(研究・情報課長)	内田 敬久
委員	教諭(高等部部長) 教諭(幼小中学部部長) 教諭(教務課長) 教諭(渉外・安全課長) 教諭(生徒活動課長) 教諭(人権・キャリア教育課長) 教諭(サポート課長) 教諭(研究・情報課長) 教諭(寮務主任) 主任寄宿舍指導員	蔭岡 絵美 大西 文代 漆原 幸子 久樹 磨美 神吉 しどり 渡邊 珠子 倉元 麻由子 内田 敬久 吉本 佑司 長谷川 美智代

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

（ 幼稚部 ） 幼児児童生徒の状況			
よさ	○保護者や教員との愛着関係ができており、友だちへの関心もできています。好きなことや興味がある遊びに取り組んでいる。それぞれの方法やペースで気持ちを表現しようとしたり、身の回りのことに取り組もうとしたりしている。	課題	○教員との活動が多いため、過支援となって幼児が受け身にならないよう教員間で指導の手立てを共通理解し、幼児が友だちと関わったり、主体的に自分の気持ちを伝えようとしたり、身の回りのことに取り組んだりすることが課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○自分のペースで身の回りのことに取り組むとともに、友だちを意識したり、自分なりの方法で気持ちを表現しようとしたりする。		○「個別の指導計画」の、友だちとの関わりを含むコミュニケーションに関することと、身辺自立に関する目標の評価が80%以上 ◎または○になる。	
			----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○それぞれの幼児の実態に応じた環境を整えるとともに、視覚障がいや併せ有する障がいに関する知識や指導方法を身につける。		○個別の指導計画の目標や手立てを年に2回以上学部内で確認する。 ○保育や視覚障がい、その他の併せ有する障がいに関する研修やケース会を年に10回実施する。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			

(小 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況

<p>よ ち</p>	<p>○少人数対応や個別対応できる学習時間を確保しやすく、各児童の障がいの程度や健康状態などに応じたきめ細かな学習活動を展開できる。</p>	<p>課 題</p>	<p>○関わる人や場所などが変わる集団活動の場で、個々が取り組んでいる内容や習得した内容を活用する機会が少ない。</p>
<p>具体的目標(目指す子どもの姿)</p>		<p>成果指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>○個別に取り組んでいる日常生活の指導や自立活動での課題を、生活単元学習、学級活動、特別活動などの集団の場面で発揮することができる。</p>		<p>○個別の指導計画の達成率が「◎」または「○」が学部全体で80%以上になる。</p>	<p>----- 評価</p>
<p>具体的方策(教員の取組)</p>		<p>取組指標</p>	<p>取組状況</p>
<p>○個別の指導計画の目標設定時に、習得したスキルを応用する場面や、発展の方法を見据えた目標を立てるように配慮する。</p>		<p>○学校行事、交流及び共同学習、幼稚部との合同学習などの集団活動時に、習得したスキルを発揮する場を、年間1回以上設定する。</p>	
<p>* 中間期の見直し</p>			
<p>達成状況を踏まえた改善事項</p>			

(中学部) 幼児児童生徒の状況

のみ	<p>○生徒の障がいの実態はそれぞれに異なるが、互いを認め合い、ともに学習に励んでいる。教科担任との話し合いを重ね、それぞれの生徒の理解度に応じた課題を設定し、家庭学習の充実に取り組んだところ、基礎的内容については定着が進んだ。</p>	課題	<p>○生徒の見え方を把握し、天候や体調によって臨機応変に教材の工夫を変更する。 教科担任制であるため、担任との連携を密にし、より一層一人一人の理解度を把握しながら、学習の定着を図っていく必要がある。また、学習への焦りや苦手意識から生じる心理的不安に対して、理解度に応じた課題設定や、他の教員と連携したカウンセリング等の実施も課題である。</p>
----	--	----	---

具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
<p>○わかる喜びと達成感によって自発的に課題に取り組む、進んで身につけたことを生活に活かそうとする。</p>	<p>○個別の指導計画の各教科・領域等の目標について、各生徒とも◎もしくは○の評価を80%以上得る。</p>	----- 評価

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>○生徒一人一人について、障がいや特性に配慮した支援・指導を検討し、共通理解にもとづく一貫性のある指導を継続して行う。 ○生徒一人一人に応じて教材教具を工夫し、指導に活かす。</p> <p>-----</p> <p>* 中間期の見直し</p>	<p>○教科担当教員を含めたケース会や連絡会、部内研修等を年間に15回以上行い、指導の統一・改善を図る。 ○毎週末の部会で、各生徒の状況をふり返り、指導の共通理解を行う。 ○生徒に応じた教材教具を10個以上作成し、自作教材シートに登録して周知を図る。</p>	

達成状況を踏まえた改善事項

--

(高等部普通科) 幼児児童生徒の状況		
よ さ	○2名とも高等部3年生であり、落ち着いて学校生活を送ることができている。少人数のため、1人1人のニーズに対応した指導がされ、日常生活や職業生活に必要な事項について知識や態度が定着しつつある。	課 題
	○卒業後の生活の中で求められる規範意識(時間厳守, 整理整頓, 挨拶励行等)やマナーが日常生活の中で定着しつつあるが、多様な場面での定着が課題である。また、卒業後に施設利用を希望している生徒は、体調を整え、様々な人とのかかわる中で、日常生活や余暇などに取り組むことが課題である。	
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
○将来を見据え、自分の課題に取り組み、日常生活や職業生活に必要な能力や意欲が向上する生徒。	○準ずる教育課程の生徒は、就業体験における評価項目で、職業生活や対人関係、作業能力、仕事への態度などの項目で80%以上の項目で「はい」と自己評価することができる。 ○自立活動を主とする教育課程の生徒は、個別の指導計画の目標のすべての項目で80%以上「◎」か「○」の評価を得る。	----- 評価
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
○進路指導主事、保護者や寄宿舎指導員、関係機関と密に連絡を取り情報交換を行い、スムーズな移行支援を図る。	○学科会や教科会で、生徒の様子や課題について話し合い、共通理解を図る。 ○必要に応じて保護者や寄宿舎指導員、関係機関と懇談や就業体験反省会、支援会議を行う。	
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

(高等部職業学科) 幼児児童生徒の状況			
よさ	○あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師になるという卒後に向けての明確なビジョンを持って学習に取り組んでいる。	課題	○一人一人異なる見えにくさからくる学習の困難をどのようにクリアしていくかが課題となっている。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○専門的知識や技能を身につけ、施術者として自立できる生徒 ○社会人としての自覚をもち、他者と共存しながら、健康で豊かな人生を自ら切り拓くことのできる生徒		○定期考査等で6割以上の成績を取る。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○知識・理解・技術を深めるために、生徒個々の課題を教員全体で共有し、改善を行いながら取り組む。 ○治療に対する研究的姿勢や人に伝える表現力等を養うため、臨床実習報告会を開催する。 ----- * 中間期の見直し		○生徒個々の課題に対して理療科会や職業学科会で共有し、補習を行う。 ○臨床実習報告会に向けて年間を通じて調べ学習や発表内容について指導を行う。	
達成状況を踏まえた改善事項			